

第3回短寿命 RI 利用研究シンポジウム

日時：2025 年 11 月 28 日（金）～29 日（土）

会場：仙台国際センター

<日程>

1 日目 11 月 28 日（金）

12：00 - 13：00 受付

13：00 - 13：10 開会の挨拶

13：10 - 13：50 基調講演

茅野 政道 先生（福島国際研究教育機構（F-REI）放射線科学・創薬医療 副分野長）

「F-REI の現状と分野の将来計画」

14：00 - 15：35 RI 利用セッション

鈴木 正敏 先生（東北大学）福島第一原発事故被災動物研究と放射線安全管理研究の接点

柿崎 竹彦 先生（北里大学）短寿命 RI がもたらす近未来の獣医核医学

魚住 信之 先生（東北大学）K-43 および Na-22 による植物イオン輸送と体内動態の解析

田久 創大 先生（QST 量医研）I-124 を用いた PET 研究

（休憩 15 分）

15：50 - 17：20 核医学診断セッション（Core to Core 事業共同開催）

渡邊 裕之 先生（京都大学）脳内オレキシン受容体を標的とした PET プローブの開発研究

張 明栄 先生（QST 量医研）短寿命 PET 核種による標識技術の開発

原田 龍一 先生（東北医科薬科大学）核医学診断薬開発における前臨床評価の深化：

臨床所見の逆解析から導くトランスレーショナルリサーチの循環

田代 学 先生（東北大学） $[^{18}\text{F}]$ SMBT-1 PET を用いた神経炎症イメージングの

臨床応用の現状

17：20 - 17：30 写真撮影

17：30 - 18：40 ポスターセッション

18：45 - 20：30 意見交換会

2日目 11月29日(土)

9:00 - 10:25 RI製造セッション

市瀬 潤 先生 (QST 量医研) 量研機構における Ac-225 製造の取り組み
村上 昌史 先生 (大阪大学) アスタチン供給溶液の品質標準化に向けた化学分析
大矢 智幸 先生 (QST 量医研) 標的アイソトープ治療を目的とした白金族
オージェエミッター (Pd-103, Rh-103m) の製造
(休憩 15分)

10:40 - 11:40 企業セッション

早野 仁司 氏 ((株)NovAccel)
小型超伝導加速器を用いた電子線照射での Ac-225 国内供給に向けて
木村 忠史 氏 (Veneno Technologies(株))
ジスルフィドリッチペプチド:新しい中分子モダリティーの RI 医薬への展開
西村 伸太郎 氏 (テリックスファーマージャパン(株))
ラジオセラノスティクスによる個別化がん治療の最前線

11:40 - 13:10 昼休み ランチョンセミナー

13:10 - 14:30 核医学治療セッション 1 (Core to Core 事業共同開催)

大井 賢一 氏 (認定 NPO 法人がんサポートコミュニティー)
四半世紀のがん患者支援活動からみた核医学診療への期待
鈴木 博元 先生 (千葉大学) ネオペンチル標識技術を用いた ^{211}At 標識中分子薬剤の開発
小川 美香子 先生 (北海道大学) 情報科学との融合による核医学治療薬開発
(休憩 15分)

14:45 - 15:40 核医学治療セッション 2 (Core to Core 事業共同開催)

右近 直之 先生 (福島医大) 福島医大における核医学治療薬開発の非臨床評価
渡部 直史 先生 (大阪大学) アスタチンを用いた標的アルファ線治療:最新アップデート

15:45 - 15:55 ポスター賞表彰

15:55 - 16:00 閉会の挨拶